

優しい先輩、美しい学校

薬剤師 4 期 篠原武夫

敗戦の翌昭和二十一年四月、都立城南中学校（旧制東京府立二十二中）に入学しました。鉄筋三階建の校舎は旧麻布小学校の建物と聞きました。斜め前に南山小学校があり、何故この様な位置に対峙していたのかと不思議に思いました。

周囲は一面の焼野原、高い建物と言えるのは谷を隔てて国会議事堂が見えるだけでした。旧制（五年制の男子校）のこの学校は昭和十七年の開校で我々が入学して五年生までが揃いました。

大竹健夫校長は学生の自主を重んじ、校友会は先輩達の入部の勧誘演説があり、私は体操部に入部しました。五年生の白髭・越智、四年生の安増、三年生の皆川、二年生の小林一仁・佐藤等の先輩諸氏がいました。バレー部に松平康隆（五年）、野球部に井垣（四年）、宮城（三年・後のテニス選手）等がいました。五年生が便所掃除をしていました。廊下も窓もピカピカで窓外の雲が廊下に映っており、女学校の先生方が来校した時「これが男子校か」と驚いていました。

先輩達が下級生に手を上げたという話は聞いたことがありません。五年生が卒業の時、講堂で挨拶があり、「我々は机にキズをつけずに君達に残して行く、社会に出たら心にキズをつけぬように生きて行く」と言われ、神様の様に思ったものでした。

二年生になった時、学制が六・三・三制に変更になり、我々は下級生を見ることが出来なくなりました。万年新兵です。

三年生のおわりに受けたのは卒業証書ではなく「東京都立城南高等学校併設中学校三年の課程を終了せしことを証す」という終了証書でした。

高二になってやっと後輩が出来、彼等は男女共学でした。実験的に先生が親、各学年の生徒が子という形のホーム・ルーム制が作られ、私は磯貝市右門先生の01ホーム・ルームで、池上武彦、大嶋正道、上井正司、小林一仁、住威久雄、田辺清一等の三年生が兄でした。我々二年生、一年生（男女）の名簿も私の手元に残ってます。